

くるみんの認定通知書交付式を開催しました！！

平成28年3月8日、群馬労働局では、次世代育成支援対策推進法に基づき「子育てサポート企業」として認定した株式会社ヌカベに対する認定通知書交付式を開催しました。



前列左から、株式会社ヌカベ 代表取締役 西田 則良様、群馬労働局長 内田 昭宏、株式会社ヌカベ 管理部長 野本 慎一様



この認定を受けるためには、従業員の子育て支援について「一般事業主行動計画」を策定して目標を達成すること、女性の育児休業取得率が70%以上であること、**男性の育児休業等取得者がいること**等、一定の基準を満たす必要があります。

認定された企業は、認定マーク（愛称：**くるみん**）を、従業員の募集や商品の広告、ホームページ等で表示することができます。

子育てサポート企業として広くアピールすることで、優秀な人材の確保・採用や、企業イメージの向上に繋がります。

内田 群馬労働局長からの挨拶



いよいよ人口減少社会になっており、人口＝国力なので、このままいくと日本は衰退してしまうおそれがある。日本は様々な課題を抱えているが、一番の課題は人口減少社会への対応ではないかと考えている。

群馬県も例外ではなく、もともと少子高齢化は進んでいるが、それに加えて、最近特に顕著であるが、若い人が群馬から出て行ってしまう状況がみられる。人口も200万人を切る状況になり、人口推計でみても、随分減少しそうである。

日本は人材立国であるが、特に群馬は「ものづくり立県」と言われており、非常に人材を大切にしている県であると思うが、人材を大切にしている県としてみた時に、人口減少や若年者の県外流出は非常にまずいのではないかと考えている。

そうしたなかで、様々な対応をしていかなければならないが、一番に、女性の活躍をもっと進め、社会で活躍する女性を多くしていかなければならないし、それと同時に、少子化に歯止めをかけ、これから人口増に転じていくためにも、社会で活躍する女性が、子どもを産み育てやすい環境を作っていかなければならず、この両方が必要である。

労働局としても、そういうことで様々な取組を進めているが、その中でくるみ認定がある。株式会社ヌカベは製造業であるが、製造業としては女性従業員の割合も高いと聞いているし、同時に、出産する女性は全員が育児休業を取得し、また、男性も育児休業を取得する環境ができてきたということで、女性の登用、それから、働いている女性の家庭との両立を非常によくやっていたらいい会社であると思う、大変感謝している。

今日、これから認定通知書をお渡しさせていただくが、この群馬の発展のための、パイオニア企業として、今後益々のお力添えをいただきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

認定通知書の交付を受ける、株式会社ヌカベ 代表取締役の西田様



株式会社ヌカベ

(代表取締役 西田 則良氏からのコメント)

本日は、弊社が日頃から活動している子育て支援について、認定通知書の交付をいただき、本当に感謝している。

私どもは製造業であるため、女性が比較的少ない職場であるが、20%弱の女性が働いており、女性の力を十分に発揮していただくことが、私どもの企業にとっては大変大事なことである。

子育てがあっても、継続して勤めていただくことを積極的に推進しており、先日も、私の部屋にお腹の大きな社員が入ってきて、「これから出産し、育児をして、また戻ってきますので、どうかよろしくお願いします」という挨拶をいただいたので、「それはよかったね」と伝えたが、私も本当に、くるみんに向けた活動を通じて、子育て支援が弊社にとって相当浸透してきた、根付いているなど、そういう風に感じている。

本日、この様に立派な交付式を執り行っていただき、あらためて厚く御礼申し上げますとともに、今後とも、ご指導の程よろしくお願いしたい。



認定企業の取組み概要等については、[こちらの記者発表資料](#)をご覧ください。